

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第125集

一本柳遺跡群

西一本柳遺跡 XII

長野県佐久市岩村田西一本柳遺跡XII発掘調査報告書
(古墳時代後期～中世集落址)

2004.12

井上寅雄

佐久市教育委員会

西一本柳遺跡Ⅻの調査について

西一本柳遺跡は佐久市のほぼ中央、湯川の段丘上に位置し、弥生のビーナス像とも呼ばれる優美な表情をもった『人面付土器』が出土した遺跡として有名です。近年、遺跡周辺は中央を国道141号バイパスが建設され、市内でも特に急速な変貌をとげている場所です。今回の発掘調査は西一本柳遺跡の中で12番目に調査された遺跡で、狭い範囲でしたが今まで周辺部で行われた調査成果と合わせると色々と重要な事が解ってきました。

今回の一番の調査成果は鎌倉時代から室町時代（13～14世紀）の人々の営みの痕跡が発見されたことです。発見されたものは、北側の道路部分の調査成果を含めると『堅穴状遺構』や『掘立柱建物址』と呼ばれる当時の家や小屋と考えられている建物跡や中国大陸で焼かれた青磁や白磁の碗、当時流通していた古銭、また壊れてはいますが硯が出土しました。これらの用具は当時の一般的な農民が使うもので無く、武士や僧侶或いは裕福な人々が所有していたと考えられています。

これらの事を考え合わせると本遺跡の南西300mの北西ノ久保地籍に所在する鎌倉中期頃の造営と考えられている墓所『北西ノ久保の石造塔婆群』と関係があるのかもしれませんが。いずれにしても、この地が中世において活発に人々が活動していた場所であったことは間違いのないようです。



例 言

1. 本書は、井上寅雄が行う集合住宅建設に伴う一本柳遺跡群西一本柳遺跡Ⅻの発掘調査報告書である。
2. 調査委託者 井上寅雄
3. 調査受託者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 西一本柳遺跡Ⅻ（I P NⅫ）佐久市大字岩村田字下桶田1773-1 他
5. 調査期間及び面積
発掘調査 平成16年4月3日～平成16年4月26日
整理作業 平成16年4月27日～平成17年2月28日
開発面積 1208㎡ 調査面積 280㎡
6. 本遺跡の発掘及び整理作業・報告書執筆は富沢が担当した。
7. 本書及び当遺跡の出土遺物等のすべての資料は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略記号は、住居址（H）・掘立柱建物址（F）・土坑（D）・溝状遺構（M）である。
2. 挿図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については挿図中にスケールを示す。
壑穴住居址・掘立柱建物址 1/80 土坑 1/80 土器 1/4 石器 1/3.2/3
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水糸標高を「標高」として示した。
4. 土層・遺物胎土の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
5. 遺物挿図番号と遺物写真番号及び遺物観察表番号は一致する。
6. 調査区グリットは公共座標の区割りに従い、間隔は4×4mに設定した。
7. 遺構は支障がない限り調査時の番号をそのまま使用しているため、欠番や飛び番がある。

目 次

巻頭カラー図版	
例 言・凡 例	
第Ⅰ章 発掘調査の経緯	
第1節 調査の経緯	1
第2節 調査体制	2
第3節 調査日誌	3
第Ⅱ章 遺跡の立地と検出遺構の概要	
第1節 遺跡の立地	2
第2節 検出遺構の概要	4
第Ⅲ章 遺構と遺物	
第1節 壑穴住居址	5
第2節 掘立柱建物址	9
第3節 壑穴状遺構	10
第4節 土 坑	16
第5節 溝状遺構	17
第6節 ビット	18
写真図版	

第I章 発掘調査の経緯

第1節 発掘調査の経緯

一本柳遺跡群は、佐久市岩村田地籍に所在し、東西方向に流れる湯川右岸の台地上にある。当遺跡群はこの台地上を東西方向に長く帯状に展開し、中央から西を西一本柳遺跡、東半分を東一本柳遺跡、北側を北一本柳遺跡とそれぞれ呼称する。昭和46年には遺跡群内に所在する東一本柳古墳が発掘調査され、石室内より金銅製の飾り馬具や鉄製の異形簪などが発見され注目を集めた。また、近年は遺跡群内を国道141号バイパスが南北に建設されると共に道路周辺部の開発によるこれらの発掘調査により西一本柳遺跡が市内でも有数の大規模遺跡であることが明らかにされつつある。

今回、遺跡群内に井上寅雄により共同住宅の建設が計画された。因って教育委員会では文化財保護法第57条の届出を受け試掘調査を行った。その結果遺構が発見され、保護協議がなされ遺跡破壊の恐れがある部分については記録保存を目的とする発掘調査を行うこととなった。



第1図 西一本柳遺跡Ⅱ位置図（1：100000）

第2節 調査組織

調査主体者	佐久市教育委員会	教育長	高柳 勉			
事務局	教育次長	赤羽根寿文				
	文化財課長	小林 正衛				
	文化財係長	高村 博文				
	文化財係	林 幸彦	須藤 隆司	小林 眞寿	羽毛田卓也	
調査体制	調査担当者	富沢 一明	上原 学	赤羽根太郎	出澤 力	
	調査員	柏木 義雄	小林よしみ	小山 功	鳥田 幹子	
		橋詰 勝子	橋詰 信子	渡辺 長子	百瀬 秋男	

第3節 調査日誌

4月3日	機械による表土剥ぎ開始
4月9日	遺構確認精査
4月12日	遺構掘り下げ・実測
4月23日	全体写真撮影
4月26日	現場終了
4月27日～	室内作業開始
	遺物洗浄・注記・接合
	遺物実測・遺物写真撮影
10月～12月	原稿を執筆して報告書を刊行



調査風景

第Ⅱ章 遺跡の立地と検出遺構の概要

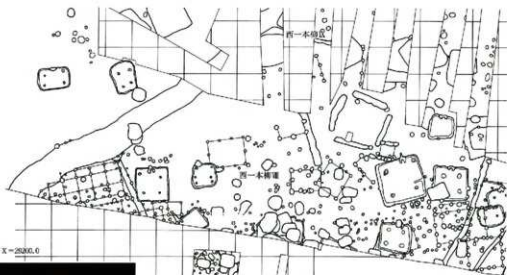
第1節 遺跡の立地

一本柳遺跡群は岩村田市街地より南西方向1kmの湯川北岸の河岸段丘に沿うように展開する遺跡群である。地形は東から西に緩やかに傾斜するほぼ平坦な地形である。標高は690m前後で、湯川との標高差は19mを測る。今回調査が行われた西一本柳遺跡Ⅶは遺跡群の中で西端にあたり、遺跡南は常木用水が走り、隣接する北西の久保遺跡と隔たっている。遺跡の土質は浅間の火山灰層と河川の氾濫による砂層が2次堆積したような混合土であり、水はけが非常によい土質である。よって遺跡周辺はほとんどが果樹及び畑作として利用されている。水田として利用されているのは、遺跡群北側の低地となる部分である。この耕作状況と重なるように畑作部分のみに古代の集落跡が展開している。

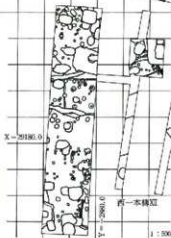
本遺跡周辺の調査された遺跡は非常に多く、かつ佐久地域にとって重要な発見がなされた遺跡が多い。まず本遺跡の西側に所在する五里田遺跡からは弥生時代中期から後期の集落と弥生後期の円形周溝墓が検出されている。また出土遺物としても銅鋼・鉄鋼はじめ鉄剣2振が出土している。次に本遺跡西隣の北西の久保遺跡であるが、湯川に飛び出した舌状台地全面が発掘調査され弥生時代から中世に及ぶ複合遺跡が検出された。特に弥生後期の木棺墓8基と方形周溝墓1基が検出されており、近接する五里田遺跡の同時期の円形周溝墓との墓制の差異に興味を持たれる。また、古墳時代後期の円墳からは人物埴輪や家・太刀・盾・鞍などの豊富な器財埴輪また鳥・鹿などの動物埴輪が出土しており、その特徴より群馬県側からの影響を指摘されている。これらは現在、市指定文化財に登録されている。



第2図 周辺遺跡位置図



「人面付土器」



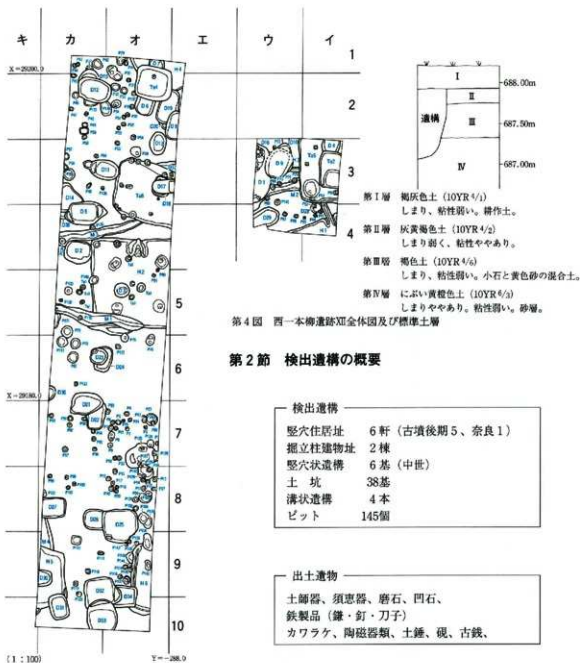
第3図 西一本柳遺跡Ⅱ・Ⅲ調査図

次に本遺跡の東側では、弥生時代中期の所産と考えられる「人面付土器」が西一本柳遺跡より出土している。この土器は壺の口縁部に人面を付けた一部と考えられるが、頸より下部が欠損しており全容は解らない。使用目的としては、頸部に円形の穴が有ること等から弥生前期に東日本に広がった再葬墓との関連が指摘されている。ただ、本資料は他の物に比べ顔の表情が写実的で尚かつその特徴から渡来系弥生人表現したとも考えられている。一方、湯川を隔てた対岸の仲田遺跡からは土坑より弥生時代前期に比定される壺口縁部や遺跡からの出土としては希少な事例となる「花弁双蝶八花鏡」と呼ばれる奈良時代の鏡が住居址より出土している。最後に東一本柳古墳を上げたい。本古墳は昭和46年に発掘調査が行われ、径10mほどの小円墳であったが横穴式石室内より予想を遙かに越える副葬品が発見された。発見された品として鉄製の長楕円形鏡板付書や金銅製の杏葉や飾金具、刀装具、耳環、勾玉、ガラス小玉がある。特に金銅製の杏葉や飾金具は見事な彫金が施されている。このように、西一本柳遺跡Ⅱの周辺部からは貴重な資料の発見がなされた遺跡が多く存在し、特に弥生時代中期から後期や古墳時代中期は佐久地域の中心集落が存在した可能性が指摘できる。



東一本柳古墳出土金銅製馬具

かに越える副葬品が発見された。発見された品として鉄製の長楕円形鏡板付書や金銅製の杏葉や飾金具、刀装具、耳環、勾玉、ガラス小玉がある。特に金銅製の杏葉や飾金具は見事な彫金が施されている。このように、西一本柳遺跡Ⅱの周辺部からは貴重な資料の発見がなされた遺跡が多く存在し、特に弥生時代中期から後期や古墳時代中期は佐久地域の中心集落が存在した可能性が指摘できる。



第 2 節 検出遺構の概要

検出遺構

竪穴住居址	6 軒 (古墳後期 5、奈良 1)
掘立柱建物址	2 棟
竪穴状遺構	6 基 (中世)
土 坑	38 基
溝状遺構	4 本
ピット	145 個

出土遺物

土師器、須恵器、磨石、凹石、
鉄製品 (鎌・釘・刀子)
カワラケ、陶磁器類、土錘、硯、古銭、

標準土層

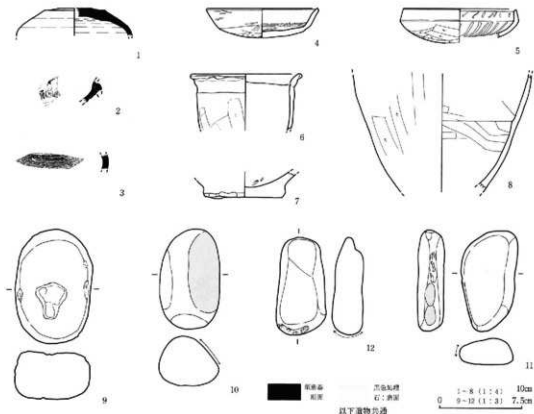
本遺跡の標準土層は 4 層に分かれる。遺構確認はⅡ層上面で耕作土直下で遺構の確認が行えた。各遺構の底部分は「湯川層」と呼ばれる二次堆積の砂層であり、調査時において崩落が激しく、ピット等の底面検出は難しかった。

また、遺構覆土は主に黒色及び黒褐色土と褐灰色土であった。中世所産の遺構については覆土が褐灰色土であり、古代の住居址や土坑については黒色及び黒褐色土土であり、覆土からはほぼ所産時期認定が行えた。

る。重複遺構の内、本址が一番古い。形態はほぼ長方形を呈する。規模は検出北壁4.78m・検出南壁4.63m・西壁5.38mで、壁高さは南壁で40cmを測る。主軸方位はNを示す。床面積は検出部で21.9㎡を測る。床は住居中央部が等に硬質で張り替えが確認された。壁溝は下部の床面で南壁と南西コーナーに「コ」の字状の間仕切り状溝が検出された。柱穴は16個が検出され、P1～P4が主柱穴と考えられる。カマドは北壁中央部にあり、白色粘土により構築されていた。

H2号住居図説

- | | |
|---|---|
| 1層 褐色土 (JOYR2) しまり、粘性弱い。小石を多く含む。 | 11層 赤色土 (JOYR4) しまり弱く、粘性あり。焼土。 |
| 2層 黒褐色土 (JOYR3) しまりややあり。粘性弱い。黄色の砂子を多く含む。 | 12層 灰赤褐色土 (2JOYR3/4) しまり、粘性弱い。火床面近くで液けている。 |
| 3層 黒褐色土 (JOYR3) しまり、粘性あり。黄色砂子を含む。1層に似る。 | (カマド跡)13層 灰白色土 (JOYR7/8) しまり、粘性あり。白色の粘土。 |
| 4層 褐色土 (JOYR4) しまりややあり。粘性あり。白色の砂子と焼土を含む。 | 14層 灰赤褐色土 (JOYR4/5) しまり、粘性あり。黄色の砂子を多く含む。 |
| 5層 褐色土 (JOYR4) しまり、粘性弱い。 | 15層 褐色土 (JOYR2) しまり弱く、粘性あり。 |
| 6層 褐色土 (JOYR4) 5層より黒味が強く粘性あり。 | (築込)16層 黒褐色土 (JOYR3/4) しまりあり。粘性弱い。上部に硬質面がある。小石を含む。 |
| 7層 黒褐色土 (JOYR3) しまりあり。粘性強い。灰色砂子を多く含む。 | 17層 黒褐色土 (JOYR3/4) しまり、粘性弱い。 |
| 8層 褐色土 (JOYR4) しまりあり。粘性弱い。黒色土と白色土の互層で一部にしまった層分あり。 | 18層 灰赤褐色土 (JOYR4/5) しまり、粘性あり。白色の粘土層。焼土を含む。 |
| (カマド)9層 灰褐色土 (JOYR7/8) しまり、粘性あり。焼土と白色粘土を多量に含む。 | 19層 灰褐色土 (JOYR7/8) しまり、粘性弱い。上部に硬質面がある。黒色土ブロックを多く含む。 |
| 10層 灰赤褐色土 (JOYR7/8) しまり、粘性あり。白色の粘土層。 | |



第6図 H2号住居址出土遺物実測図

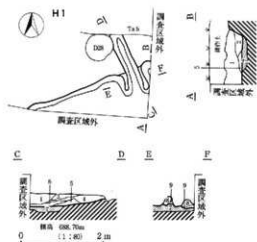
出土遺物は少なく、須恵器坏蓋・高坏や土師器坏・甕、磨石や飯石が出土した。本住居址はこれらの出土遺物より古墳時代後期Ⅱ・Ⅲ期（『西一本柳Ⅷ』第5章2節より）と考えられる。

(2) H1号住居址 (第7図 写真図版二)

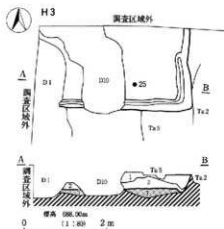
本住居址は、いー4、うー4 Grに位置する。カマド及びカマド周辺部のみの検出である。重複遺構の内、本址が一番古い。規模は検出北壁3.22mで、壁高さは25cmを測る。主軸方位はN-24°-Wを示す。床面積は検出部で1.3m²を測る。床はカマド前が特に硬質であった。壁溝及びピットは検出されなかった。カマドは北壁中央部にあり、白色粘土により構築されていた。煙道部が住居址外にのびるタイプのものである。出土遺物は非常に少なく実測可能なものは無かったが、出土した須恵器甕や土師器甕・高坏破片の特徴から古墳時代後期の所産と考えられる。

(3) H3号住居址 (第7、8図 写真図版二)

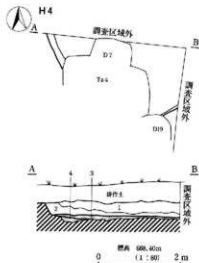
本住居址はいー3、うー3 Grに位置する。住居址南東コーナーのみの検出である。重複遺構の内、



- 1層 黒色土 (10YR 2/2) しまりあり、粘性ややあり。軽石・ローム粒子を多く含む。
- 2層 赤褐色土 (10YR 2/3) しまりあり。粘性弱い。
- 3層 暗褐色土 (10YR 2/4) しまり。粘性あり。焼土と粘土を多く含む。
- 4層 暗褐色土 (10YR 2/4) しまり。粘性あり。3層よりも、焼土・粘土を多く含む。厚さ層にいくと、粘土が少なくなる。
- 5層 暗赤褐色土 (2.5YR 2/6) しまり。粘性あり。焼土層で、炭化物を少量含む。
- 6層 黒色土 (10YR 2/2) しまりあり。粘性弱い。焼土を微量含む。
- (陥床) 7層 黒色土 (10YR 2/2) しまりあり。粘性弱い。硬質ブロック化しており、一部に焼土を含む。
- (カマド) 8層 赤褐色土 (10R 4/2) しまり。粘性あり。焼土を少量含む。
- 9層 暗赤色土 (10R 2/4) しまり弱い。粘性あり。焼土ブロックを多く含む。



- 1層 黒褐色土 (10YR 2/3) しまり。粘性ややあり。軽石やや含む。
- 2層 赤褐色土 (10YR 4/3) しまり。粘性ややあり。焼土砂、小石を含む。
- 3層 褐色土 (10YR 4/4) 陥床。しまり。粘性あり。



- 1層 黒褐色土 (10YR 2/3) しまり。粘性弱い。小石を多く含む。
- 2層 褐色土 (10YR 4/4) しまりややあり。粘性弱い。一部に白色の粘土を含む。
- 3層 褐色土 (10YR 4/4) しまりあり。粘性弱い。黄色砂と赤色土の混合土。硬質化している。
- 4層 褐色土 (10YR 4/4) 3層よりもやわらかい。下部に黄色土砂を多く含む。

第7図 H1・3・4号住居址実測図

本址が一番古い。規模は検出南壁3.23m、検出東壁1.95mで、壁高さは40cmを測る。床面積は検出部で6.2㎡を測る。床は硬質であった。壁溝は南東コーナー部で検出され、幅40cm・深さ10cmであった。本址からの出土遺物は小片の土器が多く、25の録のみ提示した。この録は床面より浮いた状態で出土し、刃部の途中から意図的に折り曲げたような状態であった。本址の所産時期は不確定部分もあるが出土土器片の特徴から古墳時代中期後半の可能性がある。

(4) H4号住居址 (第7図 写真図版二)

本住居址は、えー1・2、おー1・2Grに位置する。住居址南西コーナー周辺部のみの検出である。重複遺構の内、本址が一番古い。規模は検出南壁0.42m、検出西壁0.95mで、壁高さは29cmを測る。主軸方位はN-25°-Wを示す。床は全体に軟質であった。壁溝及びピットは検出されなかった。出土遺物は非常に少なく実測可能なものは無かったが、出土した須恵器壺や土師器壺・高坏破片の特徴から古墳時代後期の所産と考えられる。

(5) H5号住居址 (第8図 写真図版三)

本住居址は、かー9、きー9・10Grに位置する。住居址東半分のみを検出である。重複遺構の内、M4号溝状以外本址が一番古い。規模は検出北壁1.57m、検出南壁1.65m、東壁2.70mで、壁高さは54cmを測る。主軸方位はNを示すと考えられる。床は全体に軟質であった。ピットは掘り方検出時に1個が検出された。カマドは北壁付近の一部で床に広がる粘土が検出されたことから北壁側にあると考えられる。出土遺物は図示した物の他にいわゆる「武蔵甕」の破片や須恵器壺片がある。13は返りのついた須恵器蓋、14・15は須恵器坏、16は須恵器鉢、17・18は鉄製品である。本址はこれらの出土遺物の特徴より奈良時代後半の所産と考えられる。

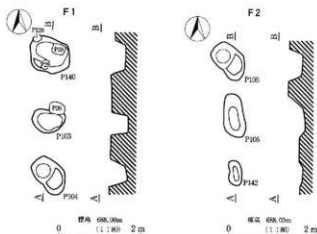
(6) H6号住居址 (第8図 写真図版三)

本住居址は、おー9・10Grに位置する。住居址西半分のみを検出である。重複遺構の内、本址が一番古い。規模は検出北壁0.97m、検出南壁1.25m、西壁3.80mで、壁高さは33cmを測る。床は全体に軟質であった。ピットは床面と掘り方検出時に2個が検出された。遺物は覆土中からの出土が多かった。19は須恵器坏蓋、20は土師器坏で内面黒色処理されている。21・22は土師器壺、23は磨石、24は磨石と葎石の両方の機能をもった石である。本址はこれらの出土遺物の特徴より古墳時代後期Ⅱ・Ⅲ期(『西一本柳』第5章2節より)と考えられる。

第2節 掘立柱建物址

(1) F1号掘立柱建物址(第9図)

本址はおー8Grに位置する。梁間のみを検出で東西方向に桁行があると考えられる。梁間は3.10mを測る。出土遺物はP103より古墳後期の土師器壺・高坏片、P104より武蔵甕片が出土している。本址の所産時期は不確定であるが古代と考えられる。



第9図 F1・2号掘立柱建物址実測図

(2) F 2号獨立柱建物址 (第9図)

本址は、お-8・9Grに位置する。梁間のみを検出で東西方向に桁行があると考えられる。梁間は2.7mを測る。出土遺物はP105より土師器坏片、P106より古墳後期の内面黒色坏が出上している。本址の所産時期は不確定であるが古代と考えられる。

第3節 竪穴状遺構

(1) Ta 1号竪穴状遺構 (第10図 写真図版三)

本址は、お-1・5、か-4・5Grに位置する。重複遺構の内、本址が一番新しい。形状は遺構確認面で2カ所に床状の硬質面と地床炉のような火所、不規則な配列のピット11個が検出された。

また、本遺構の表土除去時に巻頭8の連弁文青磁碗片や45の羽釜が出上した。これらの事より掘り込みの少ない竪穴状遺構と判断した。

(2) Ta 2号竪穴状遺構 (第10図 写真図版三)

本址は、い-3Grに位置する。重複遺構の内、本址が一番新しい。形態は方形で南側に一段下がった上坑状の掘り込みがある。規模は検出北壁1.15m、西壁2.10mで、底面面積は2.3㎡である。本址からの出土遺物は古墳後期の土師器甕・坏や須恵器甍片であるが、遺構の新旧関係より中世と考えられる。

(3) Ta 3号竪穴状遺構 (第10図 写真図版三)

本址は、お-7・8Grに位置する。重複遺構の内、本址が一番新しい。形状は遺構確認面で床面状の硬質面があり、それを取り囲むように柱穴と考えられるピット群が方形に検出された。規模は北側ラインがP6～P87で1.95m、西側ラインがP7～P18で3.73mである。検出部分の面積は12.9㎡を測る。ピットは36個が検出された。本址からの出土遺物は非常に少なく、古墳後期の土師器坏・甍片とカワラケ片2点が出土した。カワラケは1線部がやや内わんするタイプと考えられるが小片のため詳細は不明である。本址の所産時期は中世と考えられる。

(4) Ta 4号竪穴状遺構 (第10図 写真図版三)

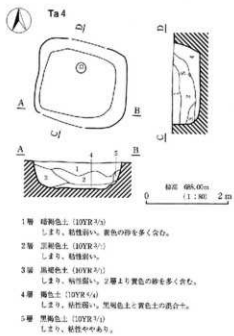
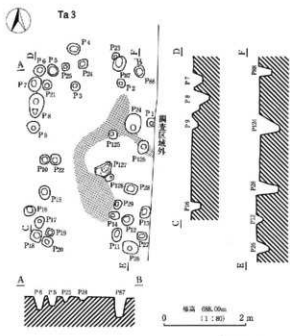
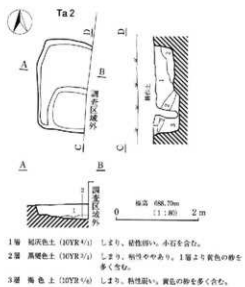
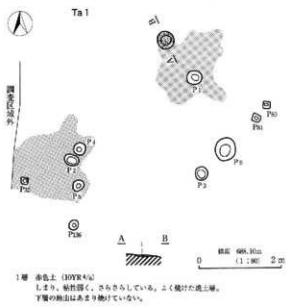
本址は、お-2Grに位置する。重複遺構の内、本址が一番新しい。形態は方形で、規模は北壁1.96m、東壁1.60m、底面面積は2.56㎡を測る。主軸方位N-24°-Wで、ピットが1個検出された。本址からはカワラケ片1点が出上したが小片で詳細不明である。本址の所産時期は中世と考えられる。

(5) Ta 5号竪穴状遺構 (第11図 写真図版三)

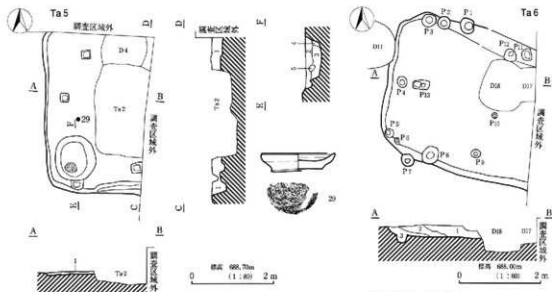
本址は、い・う-3Grに位置する。重複遺構の内、Ta 2とD 4以外は本址が一番新しい。形状は方形と考えられ、南西コーナー部に焼土を伴う円形の上坑が検出された。規模は検出南壁2.15m、西壁3.76m、検出部分面積8.8㎡を測る。床面は部分的に硬質面が確認され、ピットは4カ所検出された。本址からの出土遺物は床面より図示したカワラケが1点出土した。約2/3程残存している。本址の所産時期は中世と考えられる。

(6) Ta 6号竪穴状遺構 (第11図 写真図版三)

本址は、お-3・4Grに位置する。重複遺構の内、D11・17・18以外は本址が一番新しい。形状はやや歪な長方形と考えられ、規模は検出北壁3.22m、西壁2.92m、検出部分面積10.7㎡を測る。床面は中央が軟質であったが、壁面は緩やかな立ち上がりで壁面部分も硬質な部分が多く確認された。ピットは壁よりを中心に13個が検出された。本址からの出土遺物は少なく、P3内より図示した31～36の編物石がまとまって出土した。本址の所産時期は不確定部分もあるが遺構の形態より中世と考えられる。

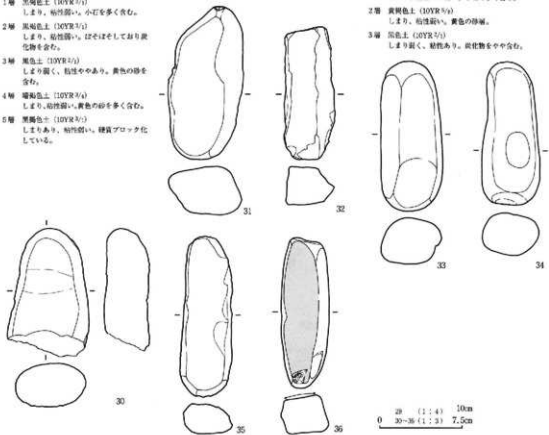


第10図 Ta1・2・3・4号竈穴状遺構実測図

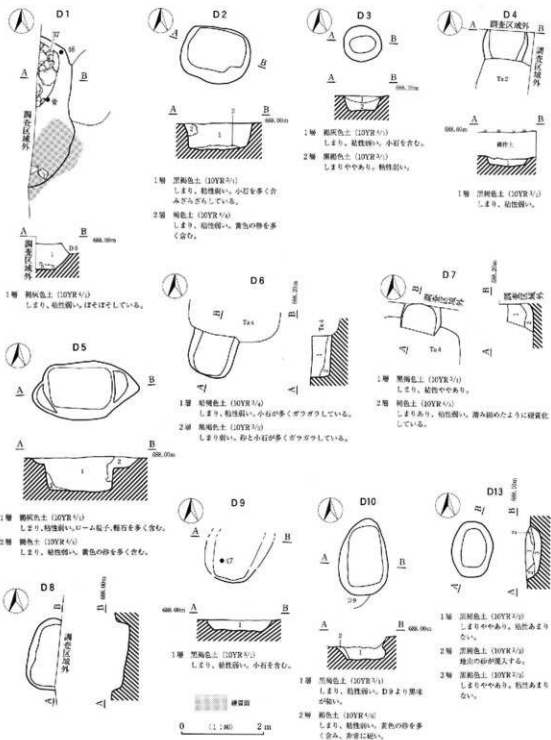


- 1層 黒褐色土 (OYR 3/5)
しまり、粘性弱い。小石を多く含む。
- 2層 黒褐色土 (OYR 3/5)
しまり、粘性弱い。ほぼぼやけており炭化物を含む。
- 3層 黒色土 (OYR 3/5)
しまり弱く、粘性ややあり。黄色の砂を含む。
- 4層 暗褐色土 (OYR 3/5)
しまり、粘性弱い。黄色の砂を多く含む。
- 5層 黒褐色土 (OYR 3/5)
しまりあり、粘性弱い。硬質ブロック化している。

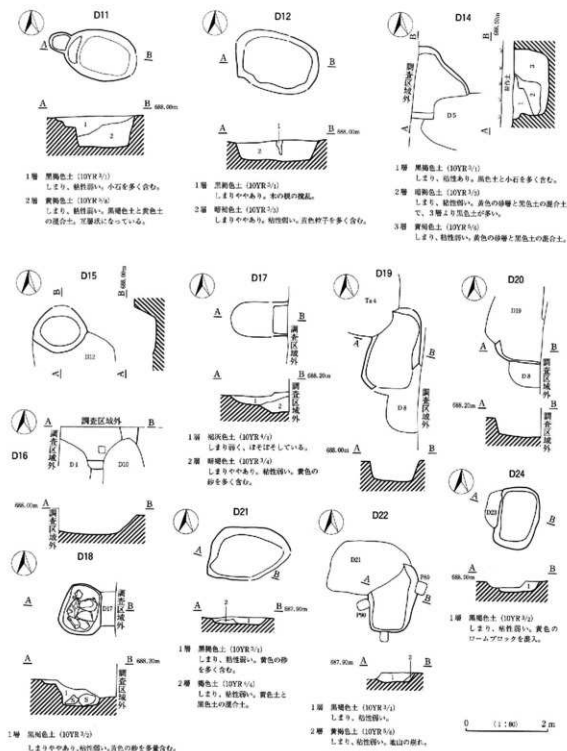
- 1層 黒褐色土 (OYR 3/5)
しまり、粘性やや弱い。小石を多く含む。
- 2層 黄褐色土 (OYR 5/5)
しまり、粘性弱い。黄色の砂層。
- 3層 黒色土 (OYR 3/5)
しまり弱く、粘性あり。炭化物をやや含む。



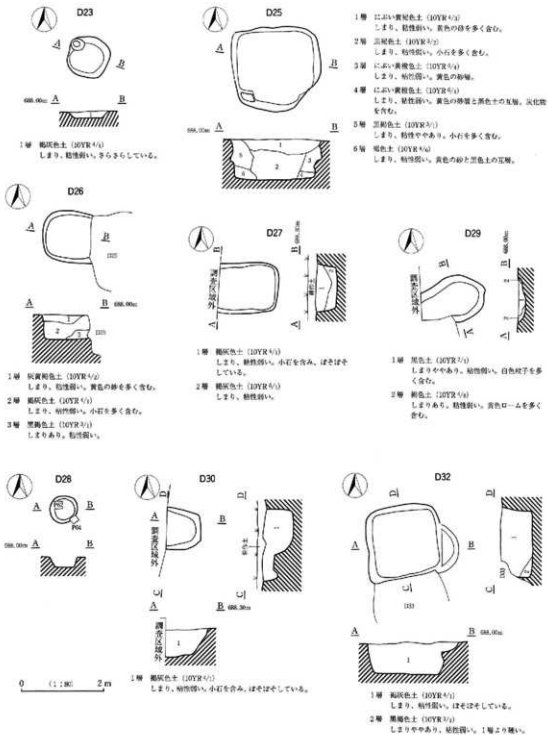
第11図 Ta 5・6号型穴状遺構実測図



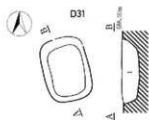
第12図 D1～10・13号土坑実測図



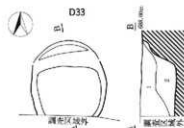
第13図 D11・12・14～22・24号土坑実測図



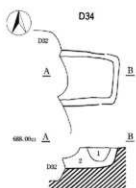
第14図 D23・25～30・32号土坑実測図



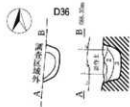
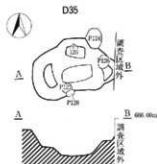
1層 黄褐色土 (10YR 5/1)
しまり、粘性弱い。小石を多く含む。ほそぼそしている。



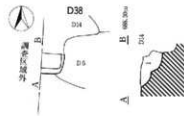
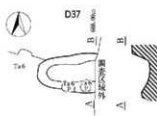
1層 灰青褐色土 (10YR 5/2)
しまり、粘性弱い。黄色の砂を多く含む。
2層 褐色土 (10YR 5/4)
しまり、粘性弱い。黄褐色の砂と褐色土の互層。



1層 黄褐色土 (10YR 5/1)
しまり、粘性弱い。ほそぼそしている。
2層 黄褐色土 (10YR 5/4)
しまり、粘性弱い。黄色の砂が主体。



1層 灰褐色土 (10YR 5/1)
しまり、粘性弱い。小石を多く含む。
2層 灰白色土 (10YR 5/1)
しまり、粘性弱い。灰と黄土層。
3層 黄褐色土 (10YR 5/1)
しまり、粘性弱い。小石と黄色の砂を含む。



1層 黄褐色土 (10YR 5/1)
しまり、粘性弱い。小石を含む。

0 1:800 2m

第15図 D31・33～38号土坑実測図

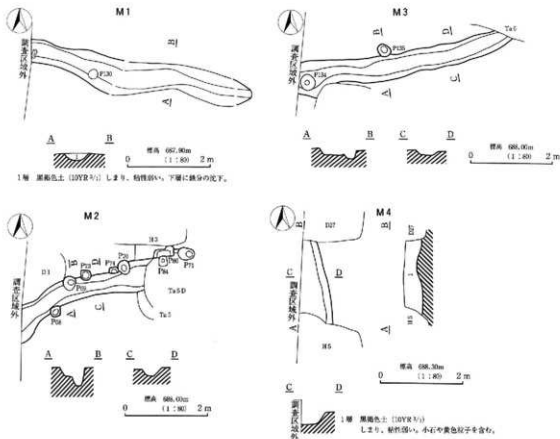
第4節 土坑 (第12～15、17図 写真図版三～六)

本遺跡からは土坑が38基検出された。その内出土遺物や覆土の状態から古代の所産時期が推定されるものとしてD29・35・37の3基がある。その他の35基は中世の所産時期が推定された。本項ではこれら中世所産と考えられる土坑についてその特徴をまとめてみたい。

まず、形態は方形、長方形、円形、不整形があるが、本遺跡としては東西に長軸をもつ長方形の土坑が多い。また、これらの土坑は遺跡内でも深いものが多い傾向にある。覆土は単層のものも多い。ただこの単層は自然堆積というよりも短時間に埋め戻したような土層も観察できる。この事が、D32・33・34号土坑の様に近似する所産時期でありながら、遺構の新旧関係がはっきりと認識できることの原因ではないだろうか。

次に先にも触れたが土坑の深さであるがD5号土坑やD11号土坑に代表されるように、今回深い土坑については「ステップ」とも言える踏み台部分が検出された。これらは土坑内に常時降りる目的の為に施設と考えるとこれら深い土坑の使用目的を示唆するものとも考えられる。

以上のように、中世所産と考えられる土坑は他の遺跡でも数が多く、また形態や出土遺物もバラエティーに富む。土坑本来の使用目的を復元推定するためには、改めて言うまでもなく慎重な発掘調査による観察が必要である。



第16図 M1～4号溝状遺構

第5節 溝状遺構

(1) M1号溝状遺構 (第16図 写真図版七)

本址は、お・かー5Grに位置する。重複遺構の内、T a 1以外は本址が一番新しい。形状はU字形の掘り込みで東西方向に検出された。東端は自然に立ち上がり消えていた。規模は検出長5.57m、幅48～88cm、深さは20cmを測る。本址よりの出土遺物は古墳後期の内面黒色坏片・甕と武蔵甕片が少量あったのみである。因って所産時期は不明である。

(2) M2号溝状遺構 (第16図 写真図版七)

本址は、うー3・4Grに位置する。重複遺構の内、本址が一番古い。形状はU字形の掘り込みで東西方向に検出された。また溝底にはビットが8個検出された。規模は検出長3.30m、幅47～78cm、深さは24cmを測る。本址よりの出土遺物は古墳後期の内面黒色坏片・甕と須恵器甕片、武蔵甕片が少量あったのみである。因って所産時期は古代と考えられるが不確実である。

(3) M3号溝状遺構 (第16図 写真図版七)

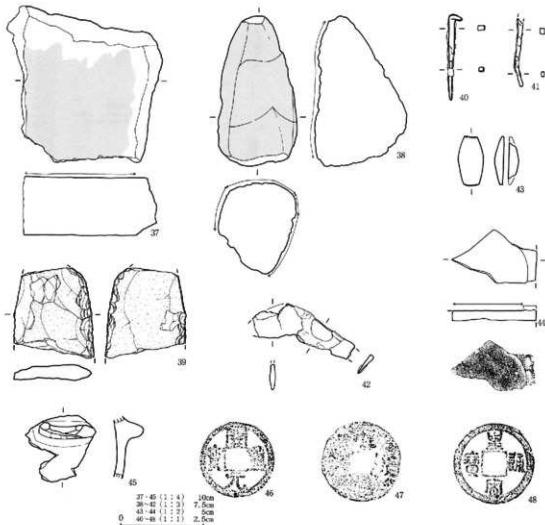
本址は、お・かー4Grに位置する。重複遺構の内、本址が一番古い。形状はU字形の掘り込みで東西方向に検出された。規模は検出長5.10m、幅43～63cm、深さは40cmを測る。本址よりの出土遺物は土師器甕片、須恵器坏・甕片が少量あったのみである。因って所産時期は古代と考えられるが不確実である。検出位置よりM2号溝状遺構につながる可能性がある。

(4) M4号溝状遺構 (第16図 写真図版七)

本址は、か-8・9Grに位置する。重複遺構の内、本址が一番古い。形状はU字形の掘り込みで南北方向に検出された。規模は検出長2.06m、深さは37cmを測る。本址よりの出土遺物は古墳中期高坏片等が少量あったのみである。因って所産時期は古代と考えられるが不確定である。

第6節 ビット

本遺跡からは145個のビットが検出された。これらビットはその覆土の状態と出土遺物で古代と中世のそれぞれ二時期に所産が分かれると判断した(表中で古代と記載したもの以外は中世と判断)。ビットの検出位置は大きく遺跡の北側と南側に分かれ中央部分は少ない傾向にあった。特に中世のビットはこの傾向が顕著で、南側のT a 3付近は不規則な配列であるが東西方向に長い建物址の存在を推定できる。ビットの形態は古代と考えられるものは円形やや大きく黒色土が覆土であり、中世のものは方形が基調で、覆土は褐灰色土のものが多かった。出土遺物としてはP 8よりカワラケ片が、P 124からはS字鏝の小片が出土している。



第17図 土坑及び遺構外出土遺物実測図

十坑計測表

番号	形状	検出位置	長軸	短軸	深さ	長軸方位	出土遺物	番号	形状	検出位置	長軸	短軸	深さ	長軸方位	出土遺物
1	不明	う-3	367	(83)	20.5-39		カワラケ	20	不明	い,お-2			19-40.5		
2	長方形	か-4	170	136	55-63	N-76°W		21	不整形	か-6.7	198	130	13-22.5	N-88°E	
3	円形	お-4	92	87	29-36.5	N-87°E		22	長方形	お,か-7	(170)	115	12.5-22.5	N-3°E	
4	不明	い-3	110	(70)	9-20			23	円形	お,か-6	100	99	6-18.5	N-73°W	
5	長方形	か-3.4	250	144	67-77	N-88°E		24	長方形	お,か-6	152	100	9.5-38.5	N-10°E	
6	長方形	お-2	(101)	113	39-47	S-18°E		25	方形	お,か-9	(215)	205	36.5-93	N-89°E	カワラケ
7	不明	お-1	97	(67)	61-65	N 76° W		26	方形	か-8	127	(116)	48.5-58	N-90°E	
8	長方形	え,お-2	172	(71)	22.5-33.5	N 10° E		27	長方形	か-8	(145)	125	14-43.5	N-20°E	カワラケ
9	不明	う-3	(125)	150	18-29	N 18° E	カワラケ	28	円形	い-4	70	66	22-25	N-51°E	
10	長方形	う-3	187	117	20-39	N-2°E		29	不明	う-4	(165)	115	8-20	N-70°E	
11	長方形	お,か-3	(223)	116	66.5-76.5	S-74°W		30	不明	か-9	98	(85)	23-28		
12	長方形	お,か-2	210	(143)	34-46	N-73°W		31	方形	お,か-9.10	158	112	23.5-40.5	N-13°W	
13	長方形	お-2.3	137	100	24-34	N-2°E		32	方形	お,か-9.10	(224)	177	20-74.5	N-82°E	打製石斧
14	不整形	か-3.4	175	(131)	50-69.5			33	方形	お,か-10	(185)	185	61-79.5	N-4°W	
15	円形	か-1.2	129	(115)	6-52	N-88°E		34	長方形	お,か-9.10	(150)	130	6-47.5	N-89°W	
16	不明	う-3	(190)		9-44			35	不整形	お,か-8	(202)	127	33-62	N-81°E	
17	不明	え,お-3	(141)	83	13.5-18	N-90°E	磁石?	36	不明	か-6	90	(36)	28.5-33		
18	方形	お-3	125	98	26-35	N-14°E		37	不整形	い,お-3	(140)	87	12-41.5	N-90°W	
19	長方形	い,お-2	(220)	124	20-46	N-14°E		38	不明	か-4			25-29		

ピット計測表

番号	検出位置	径	深さ	出土遺物	備考	番号	検出位置	径	深さ	出土遺物	備考						
1	お-7	20	35			T a 3	30	か-2	29	6	97	か-7	31	39.5	土師器鉢		
2	お-7	21	20			T a 3	31	お-2	22	10.5	武藏焼片	98	か-8	27	22		
3	お-7	24	16.5			T a 3	32	お-2	24	11		99	か-8	25	20.5		
4	お-7	33	14			T a 3	33	お-2	19	7		100	か-8	22	26		
5	お-7	29	23.5	須原器蓋		T a 3	34	お-2.3	28	18		101	お-8	33	15.5		
6	お-7	28	33.5			T a 3	35	お-3	29	18		102	お-8	30	45		
7	お-7	35	22			T a 3	36	か-3	26	24		103	お-8	80	46	土師器蓋	古代
8	お-7	60	41	カワラケ		T a 3	37	か-3	41	18		104	お-8	35	48	武藏焼片	古代
9	お-7	32	14			T a 3	38	か-2	55	13		105	お-8	53	40.5	土師器鉢	古代
10	お-7	22	13.5			T a 3	39	お-3	69	16.5		106	お-9	108	43	内皿	古代
11	お-8	33	18			T a 3	40	い-3	26	11		107	か-6	21	36		
12	お-8	28	16			T a 3	41	い-4	17	26		108	お-9	22	9.5		
13	お-8	28	16.5			T a 3	42	い-4	21	13		109	お-9	24	20	内黒	古代
14	お-8	26	13			T a 3	43	い-3	30	18		110	お-9	50	22.5	内黒	古代
15	お-8	33	22.5			T a 3	44	い-4	20	19		111	お,か-9	39	14.5		
16	お-8	28	24.5			T a 3	45	い-4	15	16		112	か-9	61	11.5	弥生土	
17	お-8	25	22			T a 3	46	う-4	25	18		113	か-6	67	33.5	須原器片	古代
18	お-8	28	36			T a 3	47	う-4	26	25		114	お-9	28	12.5		
19	お-8	20	15.5			T a 3	48	う-3	26	42		115	お-9	32	33.5		
20	お-8	27	28.5			T a 3	49	う-3	32	43		116	お-9	31	26	内黒	古代
21	お-7	25	18.5			T a 3	50	う-3	31	29		117	お-9	46	14		
22	お-7	25	31			T a 3	51	う-3	38	44		118	お-9	29	11.5		
23	お-7	18	11.5			T a 3	52	う-3	17	17.5		119	お-9	29	32		
24	お-7	23	6.5			T a 3	53	う-3	25	29		120	か-10	30	30	土師器蓋	
25	お-7	18	14			T a 3	54	う-3	22	17		121	か-8	44	23		
26	お-8	37	29			T a 3	55	お,か-6	35	36		122	お-6	31	34		
27	お-8	24	17.5			T a 3	56	お-6	68	21		123	お-6	26	29.5		
28	お-8	33	21.5			T a 3	57	か-5	42	44		124	お-7	49	52	S字土	T a 3
29	お-1	66	29	須原器・土師器		T a 3	58	か-6	61	25		125	お-7	20	22		
30	お-1.2	100	41			T a 3	59	か-6	73	40		126	お-7	33	29		
31	お-2	27	18			お,お-1.5	19	20.5				127	お-7	25	28		
32	お-2	53	23			お,お-5	20	15.5				128	お,お-8	21	41.5		
33	お-2	42	22			お,か-6	67	16				129	お-8	23	19		
34	お-2	57	18.5			お,お-7	78	27.5				130	か-5	23	18		
35	お-2	29	20			か,う-3	22	23				131	か-5	88	16.5		古代
36	お-2	29	15			お,う-3	47	25				132	か-5	17	9.5		
37	か-1	44	21	武藏焼片		お,う-3	47	24				133	か-5	47	26.5		古代
38	か-3	39	20			お,お-7	38	51				134	か-4	40	32		古代
39	か-3	70	37			お,お-7	28	27.5				135	か-4	35	22.5		古代
40	か-3	37	13			お,お-7	32	21.5				136	か-3	19	15.5		
41	お-1	28	30			お,か-7	31	9				137	お-2	27	38		
42	か-1	66	28			お,か-7	34	29.5				138	お,か-2	63	18		
43	か-1	28	15			お,か-7	28	19				139	か-2	92	21		
44	か-1	28	10			お,か-7	30	21				140	お-8	107	41		古代
45	か-2	36	17			お,か-7	25	15				141	か-5	56	62		古代
46	か-2	42	12			お,か-7	28	10				142	お-9	62	13.5		古代
47	か-2	30	11			お,か-7	23	10.5				143	お-9	19	13		
48	か-2	23	12			お,か-7	28	10				144	お-9	12	16.5		
49	か-2	30	30			お,か-7	23	10.5				145	う-3.4	35	24.5		

住居址計測表

遺構名	グリッド	面積	壁 長 (m)				柱穴規模 径×深さ (cm)	備 考
			北 壁	南 壁	西 壁	東 壁		
H1	い-4 う-4	(1,328㎡)	(3.22)	-	-	-		Ta5・D28
H2	お-4・5 か-4・5	(21,936㎡)	(4.78)	(4.63)	5.38	-	P1・81×63.5 P2・83×84.5 P3・75×67 P4・82×73 P5・30×29.5 P6・82×8.5 P7・44×36.5 P8・34×62.5 P9・70×40 P10・35×53.5 P11・37×29 P12・35×18.5 P13・25×37 P14・30×30.5 P15・21×50.5 P16・40×52	Ta1 D2.3 M1.5 P73.141
H3	い-3 う-3	6,240㎡	-	(3.23)	-	(1.95)		Ta5 D1.10
H4	え-1.2 お-1.2		-	(0.42)	(0.93)			Ta4 D7.19
H5	か-9 き-9.10	(4,084㎡)	(1.57)	(1.65)		2.7	P1・53×25	D30.31
H6	お-9.10	(3,246㎡)	(0.97)	(1.25)	3.80	-	P1・60×21.5	D34 P2 (P142) P110.115

出土遺物観察表

No.	遺物名	器 種	尺 (cm)		重 (g)	出 土 地 点	内 容	備 考	出 土 階 層	
			全長	口径						
1	H2	磁土器 片断	16.0	4.5	<3.4>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
2	H2	磁土器 片断	-	-	<2.8>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
3	H2	磁土器 片断	-	-	<1.7>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
4	H2	磁土器 片断	13.4	10.5	3.6	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
5	H2	磁土器 片断	8.7	9.8	4.2	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
6	H2	磁土器 片断	13.6	-	<6.7>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
7	H2	磁土器 片断	-	-	<1.0>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
8	H2	磁土器 片断	-	-	<1.5>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
9	H2	磁土器 片断	10.1	6.8	4.3	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
10	H2	磁土器 片断	9.1	5.5	4.5	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
11	H2	磁土器 片断	9.2	4.9	2.4	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
12	H2	磁土器 片断	9.0	4.5	2.8	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
13	H5	磁土器 片断	11.1	<1.8>	1.5	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
14	H5	磁土器 片断	14.8	7.9	3.9	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
15	H5	磁土器 片断	16.4	6.8	4.2	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
16	H5	磁土器 片断	23.4	-	<10.6>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
17	H5	磁土器 片断	<10.5>	1.5	0.5	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
18	H5	磁土器 片断	<8.8>	1.0	0.6	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
19	H5	磁土器 片断	10.0	4.5	3.7	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
20	H5	磁土器 片断	12.7	-	<6.3>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
21	H5	磁土器 片断	22.0	-	<9.1>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
22	H5	磁土器 片断	12.7	-	<6.1>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
23	H5	磁土器 片断	13.9	9.1	4.0	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
24	H5	磁土器 片断	14.8	5.3	6.2	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
25	H5	磁土器 片断	12.7	2.8	0.3	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
26	T a 1	磁土器 片断	<3.4>	0.9	0.2	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
27	T a 3	磁土器 片断	<3.5>	0.2	0.5	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
28	T a 3	磁土器 片断	<1.0>	<0.2>	<1.0>	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
29	T a 5	磁土器 片断	8.9	6.0	2.1	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
30	T a 6	磁土器 片断	11.7	7.3	4.0	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
31	T a 6	磁土器 片断	12.1	4.5	3.5	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
32	T a 6	磁土器 片断	11.0	6.8	4.4	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
33	T a 6	磁土器 片断	13.7	3.8	4.2	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
34	T a 6	磁土器 片断	13.0	5.4	3.9	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
35	T a 6	磁土器 片断	11.7	4.6	2.7	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
36	T a 6	磁土器 片断	13.6	4.4	3.6	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
37	D1	磁土器 片断	<18.0>	<17.5>	7.9	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
38	D12	磁土器 片断	15.7	2.1	8.3	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
39	D22	磁土器 片断	<7.8>	<7.0>	1.4	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
40	D17	磁土器 片断	7.3	0.6	0.4	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
41	D19	磁土器 片断	<6.2>	0.4	0.5	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
42	D31	磁土器 片断	<9.4>	2.9	0.5	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
43	D1	磁土器 片断	3.0	1.5		西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
44	D30	磁土器 片断	<5.7>	<0.6>		西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
45	1-1	磁土器 片断	<7.0>	<7.0>		西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
46	D1	磁土器 片断	2.2		3.2	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
47	D9	磁土器 片断	2.4		2.5	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区
48	1-1	磁土器 片断	2.4		2.2	西側	ロコナダ	ロコナダ	1/2階	I区

※出土位置の○cmは床面よりの高さ



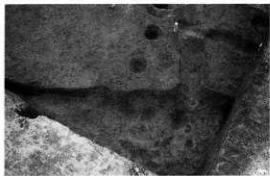
西一本柳遺跡知東側調査区全景（北より）



西一本柳遺跡知西側調査区全景（北より）



H 1号住居址全景（西より）



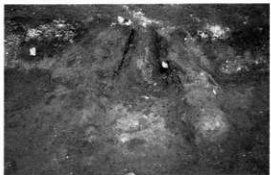
H 1号住居址掘り方（南より）



H 2号住居址全景（南より）



H 2号住居址掘り方（南より）



H 2号住居址カマド（南より）



H 2号住居址カマド調査風景（東より）



H 3号住居址全景（南より）



H 4号住居址全景（南より）



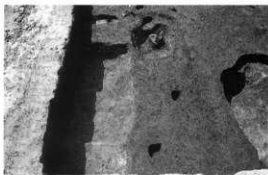
H5号住居址全景（東より）



H6号住居址全景（西より）



Ta1号竪穴状遺構全景（東より）



Ta2・5号竪穴状遺構全景（北より）



Ta3号竪穴状遺構（西より）



Ta4号竪穴状遺構・D7号土坑全景（北より）



Ta6号竪穴状遺構全景（東より）



D1号土坑全景（南より）



D 2号土坑全景（西より）



D 3号土坑全景（北より）



D 4号土坑全景（南より）



D 5号土坑全景（西より）



D 6号土坑全景（西より）



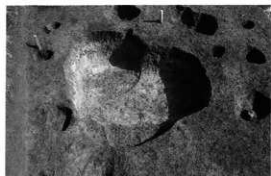
D 8号土坑全景（西より）



D 9・10・16号土坑全景（北より）



D 11号土坑全景（西より）



D12・15号土坑全景（南より）



D13号土坑全景（南より）



D14号土坑全景（北より）



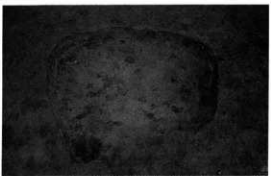
D18号土坑全景（南より）



D19・20号土坑全景（北より）



D21・22号土坑全景（北より）



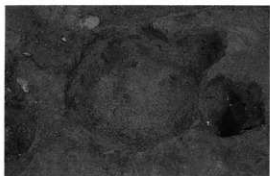
D23・24号土坑全景（南より）



D25・26号土坑全景（北より）



D27号土坑全景（北から）



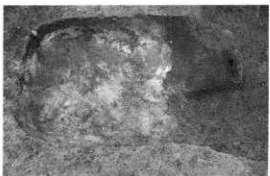
D28号土坑全景（西から）



D29号土坑全景（東より）



D30号土坑全景（東より）



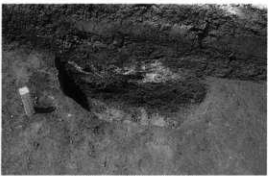
D32号土坑（東より）



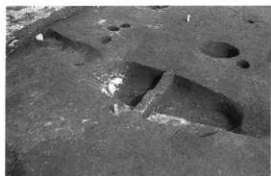
D32・33・34号土坑全景（北より）



D35号土坑全景（西より）



D36号土坑全景（東より）



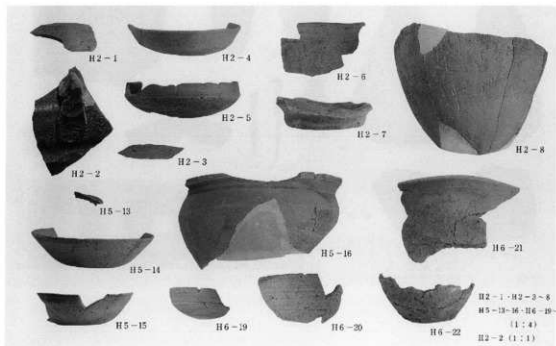
M1号溝状遺構全景(南より)



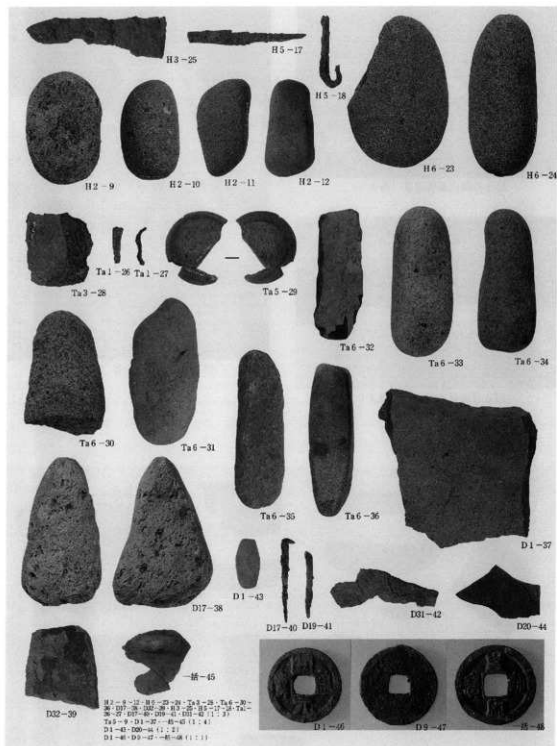
M3号溝状遺構全景(東より)



M4号溝状遺構全景(東より)



出土遺物



出土遺物

報 告 書 抄 録

書 名	西一本柳遺跡Ⅻ		
副 書 名			
巻 次			
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書		
シリーズ番号	第125集		
編 著 者 名	富沢一明		
編 集 機 関	佐久市教育委員会		
発 行 機 関	佐久市教育委員会		
発行年月日	2004. 12. 24		
作成機関ID			
郵便番号	385-0006		
電話番号	0267-68-7321		
住 所	長野県佐久市大字志賀5953		
遺 跡 名	西一本柳遺跡Ⅻ		
遺跡所在地	長野県佐久市大字岩村山字下樋田		
市町村コード			
遺 跡 番 号			
北 緯	X=29180		
東 経	Y=-2880		
調 査 期 間	2004. 04. 03 ~ 2005. 02. 28		
調 査 面 積	280㎡		
調 査 原 因	集合住宅建設		
種 別	集落址		
主 な 時 代	古墳後期/中世		
遺 跡 概 要	住居址 6 (古墳後期 5、奈良 1) 掘立柱建物址 2 髷穴状遺構 6 溝状遺構 4 土坑 38		
特 記 事 項	西一本柳遺跡の西端に当たる遺跡で、今回の調査地点では弥生時代中期・後期の集落址が検出されなかったことから、隣接する北西ノ久保遺跡の弥生集落と西一本柳遺跡の弥生集落は繋がらない可能性が推測できた。		